

ブラジル政治・経済情勢

平成 21 年 10 月
在ブラジル大使館

政治情勢

2010年大統領選挙等

- 選挙まであと1年を切り、大統領選挙へ向けた各陣営の動きが活発化。
- ジルマ・ロウセフ文官長対ジョゼ・セーラ・サンパウロ州知事を軸とした戦い。
- 現時点でリードしているセーラに対し、PTジルマ陣営が追い上げを図るため本格的に始動。(各地での遊説、他党との連携交渉など)
- シロ・ゴメス(下院議員、PSB)、マリナ・シルバ(前環境相PV)の動向にも注目が集まる。
- その他の注目点
 - ・ 目立つビジネスマンの政界進出
メイレレス中銀総裁 PMDB(上院議員出馬?ゴイアス州知事、副大統領の話も)
パウロ・スカフFIESP会長 PSB(サンパウロ州知事出馬?)
ギレルメ・レアル「NATURA」社長 PV(副大統領候補?)
 - ・ 閣僚の出馬(4月までに辞任)
ジルマ文官長、コスタ通信相(ミナス州知事)、アモリン外相(下院議員?)など
 - ・ 日系議員
ウィリアム・ウー下院議員 日系初の上院議員をめざす

国際情勢とブラジル

- 経済危機をいち早く克服し、国際社会の信頼を確保。
- グローバル・アーキテクチャ改革における主導的役割を發揮
 - ・ 金融G20での発言力強化(G8+5にも参加しつつも、G20をより重視)
 - ・ 国連安保理改革を推進(G4における日本との協力)
 - ・ WTO、気候変動、軍縮等
- 積極的な新興国外交
 - ・ BRICsなどの枠組みをうまく活用
 - ・ 新興国の良識派としてブラジルの評価が向上(民主主義が定着し政治リスクはゼロ、BRICsで唯一の非核兵器国)
- 南米における指導力を確保(UNASUL(南米諸国連合)の設立など)
 - ・ 政治的安定、抜群の経済力、ルーラ大統領の指導力、南米統合
 - ・ ホンジュラス:セーラ大統領の復帰を無条件に支持 大使館での保護。
- リオオリンピック招致 ブラジルの国力向上の現れと自他共に評価
- 米国との良好な関係(オバマ大統領とルーラ大統領の信頼関係)
- 時として過度に寛容政策との批判もあり(ベネズエラ他南米左派国、イラン、北朝鮮、キューバ等との関係)

経済情勢

マクロ情勢：危機からいち早く回復：グローバル経済における相対的優位性実証

第2四半期前期比成長率1.9%（年率換算7.8%）

- 金融緩和（5次の利下げで一桁へ）、工業製品・所得税減税等で耐久消費財から回復。
- 投資も急速に拡大、株価も経済危機前水準まで回復 投資適格獲得。外準\$2300億
- 堅実なマクロ経済運営に高評価：債務国からIMF債権国（100億ドル融資表明）へ
- 伯国債が投資適格獲得。外貨準備高も約2300億ドル

09年プラス成長確実、10年は3.5~5.0%成長見込。金融緩和は一段落

日伯経済関係の高まり：多様な分野でビジネスチャンスを提供：伝統的分野+新規分野

- 08年に著しく拡大：対伯投資は前年比8倍（41億ドル：4位） 貿易も45%増
- 09年は経済危機の影響で停滞は不可避だが、明年以降は明るい見通し。
- 企業関係者の来訪増大 / ブラジルの比較優位への日本国内における認識向上
- 日本が比較優位を有する「先端技術+資金」が伯のニーズにマッチ = 「互惠型経済協力」
- 伝統的分野：鉱山・鉄鋼・紙パルプ、アルミ、自動車、食糧

両国経済関係の基盤として日伯貿易・投資を牽引

- 新規分野：高速鉄道・デジタルTV・油田開発・エコビジネス
- リオ・サンパウロ間高速鉄道：新幹線方式の売り込みが佳境へ
- 史上最大の日伯協力案件。景気対策として重要。ファイナンスが課題
- デジタルテレビ：国際標準競争において日伯方式普及が育む新たな協力モデル
- 日伯協力で南米制覇へ（亜、智、ペルー、ベネズエラ） 他大陸への拡大も期待。
- 深海油田開発を通じた石油関連投資（ペトロプラスが5ヵ年1744億ドル投資計画）
- 掘削船、生産設備（各1隻10億ドル規模） 製油所建設（100~200億ドル規模）
- PAC（約5千億ドルの政府成長加速計画）新幹線・バイオ燃料・インフラ整備
- オリンピック開催がPAC2構想への弾みに
- 環境ビジネス：省エネ技術大国（日）とクリーンエネルギー大国（伯）の相乗効果に期待
- 気候変動・エコ意識の高まり 太陽光発電、省エネ家電、バイオ燃料、植林産業
- 今後の課題
- 構造的要因：複雑かつ高負担の税制、法制度の不備、インフラ未整備、人材育成等
- 好調な経済、 現政権の大きな政府志向、 明年の選挙、から改革は期待薄。
- 財政悪化への懸念

景気対策、貧困者対策、WC・五輪需要等支出圧力増大。明年選挙も支出圧力増に。

他方、税収は減少。基礎的財政収支目標の引き下げ等財政に影響。

- 進行するレアル高：輸出産業への打撃。貿易黒字は減少傾向へ。安価な中国産品が席捲。

日伯経済の枠組み：経済はじめ二国間関係強化により拡大・再活性化

- 賢人会議・経済合同委員会・貿易投資促進委員会の三層構造の確立（関係整理要検討）
- 分野別枠組み：デジタルTV作業部会、バイオマスWG、科学技術合同委員会

日・メルコスール協議、社会保障作業部会、領事当局者協議、環境対話